

1994年東京国際映画祭

[京都大会]グランプリ・監督賞

息

愛が欲しかった。



子の の 告

少年はいつも母親をみつめていた。
忘れることのなかったあの父の言葉。
10年の歳月を越えて息子が問いかけたものは、
愛なのか、それとも真実か……。
中国安徽省で実際に起こった事件をモデルに
描く鮮烈な問題作。

嚴浩(イム・ホー)監督・脚本作品(原題・天国逆子)
THE DAY THE SUN TURNED COLD (1994)

発



製作・脚本・監督 = 嚴浩イム・ホー ● 脚本 = 王興東ワン・シントン / 王浙演
ワン・シーピン ● 企画 = 許鞍華アン・ホイ ● 撮影 = 侯咏ホウ・ヨン ● 美術 =
黎明輝コン・ミンホイ ● 音楽 = 大友良英 ● 民族音楽 = 那炳農ナー・ピンチェ
ン ● 主演 = 庾宗華トウ・ツォンホウ / 斯琴高娃スー・チンカオワー / 馬精武マー
チンウー / 羅子威イ・ツイ / 許聰シュイ・ツォン / 李虎リー・フー ● 1994年香港東熙
影業公司・長春映画製作所協力/カラー・ビスタ/配給 東光徳間



●中国安徽省で実際に起こった事件を香港の嚴浩(イム・ホー)監督が脚色映画化。

14歳の時に病死した父の死因に疑惑を抱き続けていた青年が、解放軍を除隊し

10年を経て、愛する実の母を殺人容疑で当局に告発したという、中国安徽省で実際に起こったショッキングな事件を香港の嚴浩監督が取材を重ねて脚色。人間の魂の根源に迫るテーマをむしろ爽やかに、観客を引き込む語り口で映画化した。事件の特徴を際立たせるために舞台は厳寒の東北地方に移されている。母が経営する豆腐屋の立ち込めるもや、ブルーと白を基調としてとらえた風景、油絵を思わせる画面が美しい。その美しい画面に『青い嵐』で涙を見せた大友良英のシンプルかつ優美な音楽が映える。

●94年京都国際映画祭(第七回東京国際映画祭・京都大会)グランプリ、最優秀監督賞受賞ノ

平安建都1200年を記念して、京都で行われた京都国際映画祭(第七回東京国際映画祭・京都大会)で、インタナショナル・コンペ部門グランプリを獲得、さらに最優秀監督賞に輝いた。受賞した嚴浩監督は香港の監督としては、初の国際映画祭グランプリ監督となった。

嚴浩監督は香港生まれの香港育ち。テレビでカメラマン、シナリオライター、ディレクターとして活躍した後、1984年中国を舞台にした映画『ホームカミング』を発表。許鞍華(アン・ホイ)監督等とともに香港ニュー・ウェーブ(新浪潮)の旗手

と注目された。『天菩薩』『レッドダスト』と中国大陸に題材を得た作品を中国と共同で製作、今度の『息子の告発』に至っている。『レッドダスト』で92年台湾金马賞作品賞はじめ八部門で受賞。『息子の告発』で94年東京国際映画祭[京都大会]グランプリ、監督賞のダブル受賞を果たした。

●ものがたり

中国東北部の小都市。凍てつく冬の朝。一人の若い男が警察署に入って行った。殺人事件の捜査を依頼するためである。担当の警部は話を聞いて衝撃を受けた。というのは、彼クワン・チェンが依頼した捜査が10年前に起こった彼の実の母の殺人、しかも父を殺した容疑であったから。

クワン青年が育ったのは雪深い山村。父は小学校の校長先生、母は自宅で豆腐屋を営み、幼いクワン少年は弟妹と豆腐を売り歩いた。暮らしは決して楽ではなかった。ある猛吹雪の日、母と二人で乗ったソリが山道で転覆、雪の穴に落ちた二人は営林署で樵として働く男に命を救われる。母親と樵は間もなく不倫の関係になった。村中に噂が広まり、それを聞いた父は母を責め暴力をふるった。やがて父が突然病気で倒れた。父は二度の入院後あっけなく亡くなった。母の挙動を見守っていたクワン少年は父の食事に白い粉をふりかけるのを目撃した。母は幼いクワン少年達を置きざりにして、命の恩人の樵の下に嫁に行った…。



●1994年東京国際映画祭 [京都大会]グランプリ・監督賞 息子の告発 原題・天国逆子 THE DAY THE SUN TURNED COLD

この映画は、母と息子の間にある愛と憎しみに関する物語です。

イム・ホー 嚴浩(監督)



『息子の告発』製作中、私は今までになくしばしば創作上のジレンマに直面しました。

この映画は実際の出来事を元としています。セリフの多くは関連の調書から取りました。フィクションと現実の事件のどこに一線を引くか、また、この現実の物語を誰にでも当てはまる普遍的なものに変えることが私に課せられた試練でした。

これを克服するために、登場人物のとってきた行動をこまやかに観察することに専念しました。

最も顕著な例は、息子が母を訪ねるシーンです。始めは涙ながらの対面でした。それを撮った後、もっと押えた表現の方が涙の溢れる目で見つめ合うよりも、彼等の想像を絶する苦しみを表すのではないかと思います。考えに考えた末、このシーンは取り直すことになりました。

何が息子をあのように過激に母を愛し憎ませたのか?彼は本当に法律に従って行動しようとしたのだろうか?

あるいは神の逆反児になろうとしたのか?観客の皆さんがこの映画のラストについて議論して下さいを期待します。

〈スタッフ〉
製作・脚本・監督……………嚴浩(イム・ホー)
脚本……………王興東(ワン・シントン) 王浙濱(ワン・シーピン)
企画……………許鞍華(アン・ホイ)
撮影……………侯咏(ホウ・ヨン)
美術……………龔明輝(ゴン・ミンホイ)
音楽……………大友良英 民族音楽……………那炳農(ナー・ピンチェン)

〈キャスト〉
関連 クワンチェン……………廣宗華(トウオ・ツォンホフ)
母(蒲風英)……………斯琴高娃(スーチンカオワー)
父(閻世昌)……………馬精武(マー・チンウー)
母の愛人(劉士貴)……………魏子(ウェイ・ツイー)
●94年香港東照影業・長春映画協力/カラー・ビスタ98分
配給◎東光徳間



3/11(土)よりロードショー(3/24(金)まで)

12:30 2:30 4:30 6:30

特別鑑賞券1400円発売中!!

当日◆一般1600円/学生1400円/シニア(60才以上)1000円

第七藝術劇場 THE SEVENTH ART THEATER

阪急十三駅西口、栄町商店街徒歩2分左側 サポートシティ6F ☎06(302)2073

モーニングショー 【中国映画傑作選】 料金1000円均一

3/11(土)~3/17(金) 連日10:00~1回上映	心の香り('92) 監督:スン・チョウ
3/18(土)~3/24(金) 連日10:00~1回上映	青い嵐('93) 監督:ティエン・チュアン・チュアン